

兵庫 7/19 ㊦ | 12:00 - 14:00 須磨海浜水族園@エントランスホール 〒654-0049 兵庫県神戸市須磨区若宮町1-3-5

H P <http://sumasui.jp/>
 プログラム Save The RED LIST 写真展 / Save The RED LIST フォーラム / アマミノクロウサギ保護啓発ムービー上映会

● Save The RED LIST フォーラム

全国で絶滅危惧種の保護活動に取り組まれている団体・個人の方々にご参加いただき、日本の絶滅危惧種の保護活動の最前線とわたしたちが取り組むべき課題を伝えていただきます。

登壇者

佐竹 節夫氏 | コウノトリ湿地ネット
 山科ゆみ子氏 | 丹波地域のホトケドジョウを守る会
 井口利枝子氏 | とくしま自然観察の会
 長尾 淳史氏 | 立命館大学映像学部5年生
 立石 聡明氏 | Save the RED LISTプロジェクト実行委員

来賓

環境副大臣
 関よしひろ氏



| Schedule | |
|-------------|---|
| 11:50 | 開場 |
| 12:00 | 「Save The RED LIST」プロジェクトについて |
| 12:05 | 開会挨拶<環境副大臣関芳弘様> |
| 12:10 | パネラー紹介 |
| 12:20 | 絶滅危惧種保護活動紹介<各パネラーより> |
| 12:20 | パネラー1<コウノトリ(コウノトリ湿地ネット 代表 佐竹 節夫様)> |
| 12:35 | パネラー2<シオマネキ(とくしま自然観察の会 井口利枝子様)> |
| 12:50 | パネラー3<ホトケドジョウ(丹波地域のホトケドジョウを守る会 山科 ゆみ子様)> |
| 13:05 | パネラー4<アマミノクロウサギ保護ムービー上映と監督挨拶(立命館大学 長尾 淳史様)> |
| 13:20~13:55 | パネルディスカッション |
| 13:55 | 閉会挨拶 |
| 14:00 | 閉会 |

● Save The RED LIST 写真展

さまざまな環境悪化により絶滅が危惧されている日本の絶滅危惧種の窮状と課題を、絶滅危惧種の保護活動の最前線で活動される方々の写真とメッセージで伝えます。

● アマミノクロウサギ保護啓発ムービー上映会

世界自然遺産登録を目指す奄美大島の地元の方々・自治体・JCF学生映画祭スカラシップによる連携により、制作した、日本の絶滅危惧種1372種の1つである「アマミノクロウサギ」の保護啓発ムービーの上映を致します。若者を中心とする観光客に向け、「ロードキル」(※ウサギとの交通事故)や「ノネコへの餌やり」等の防止を促し、アマミノクロウサギ保護につなげます。

ACCESS アクセス

徒歩 5分 | JR「須磨海浜公園」駅から
 徒歩 10分 | 山陽電鉄「月見山」駅から

北海道 7/29 ㊦ - 9/3 ㊦ 10:00~17:00 ※火・水休館 政和アートFes @旧政和小学校 東京 8/27 ㊦・28 ㊦ 10:00~17:00 アニマルウェルフェアサミット2017 @東京大学弥生講堂等

H P <http://seiva-artfes.moo.jp/> https://peraichi.com/landing_pages/view/aws
 プログラム Save The RED LIST 写真展 / アマミノクロウサギ保護啓発ムービー上映会

北海道雨竜郡横加内町の廃校となった元政和小学校でのアートイベント「政和アートFes」では他にも道内アーティストの作品展示や、スタンドグラス作成体験などのワークショップも開催されます。

ANIMAL WELFARE SUMMIT 2017 Christel Vie Ensemble Foundation
 滝川クリステル氏が代表理事を務める一般財団法人「クリステル・ヴィ・アンサンブル」主催のイベント「アニマル・ウェルフェアサミット2017」は、「もっと知ろう動物のこと」「日本が目指すアニマルウェルフェア」と題し、アニマル・ウェルフェアにおける各分野のトップランナーが集い発信する場です。

エルムスユニテッド動物病院グループについて

エルムスユニテッド動物病院グループは、全国に9つの動物病院を運営しております。24時間診療でMRIやCT等を保有し高度獣医療に対応するセンター病院と「地域獣医療を守る！」を合言葉に地域に根差した一次病院であるユニテッドの2つのブランド展開で、獣医療を通じた人と動物の共生社会実現に貢献して参ります。わたしたちは伴侶動物の診療を行う動物病院の立場から、人と動物の共生と生態系の維持に貢献する「絶滅危惧種保護活動」の一環として、「Save The RED LIST」プロジェクトを応援しています。

※RED LISTとは： 世界の絶滅のおそれのある動物をリストアップした「REDLIST」は、スイスのグラウン本部を置く、IUCN(国際自然保護連合)により発表されており、現在、約2万4000種もの野生生物が名を連ねています。現在、日本ではIUCNが作成したレッドリストの評価基準に基づいて、環境省が日本独自のレッドデータブックおよびレッドリストを作成し、756種の絶滅危惧種がリストアップされています。

お問い合わせ先
 【Save The RED LISTプロジェクト事務局】
 〒168-0074 東京都杉並区上高井戸1-14-4 三幸ビル5階
 (株)エルムスユニテッド動物病院グループ内)
 03-6681-1622 <http://savetheredlist.com>



まもりたい まもるべき 生きものたち写真展

<http://savetheredlist.com>

「Save The RED LIST」プロジェクトでは、自然や環境保全の大切さを学び伝えることで、より多くの人の環境保全への「アクション」につながるきっかけを提供しています。



写真提供:右上から時計回りに、コウノトリ/コウノトリ湿地ネット、ホトケドジョウ/丹波地域のホトケドジョウを守る会、シオマネキ/幸田青滋氏、オオワシ/猛禽類医学研究所、アマミノクロウサギ/長尾淳史氏)

● 写真展の開催概要 (開催場所 | ①兵庫 ②北海道 ③東京) ●

| 開催内容 | 日時 | 場所 | 参加方法 |
|------------------------------|---|---|---|
| 「まもりたい まもるべき生きものたち」写真展&フォーラム | ①2017年7月19日(水曜日)12時~14時00分 ②2017年7月29日(土曜日)~9月3日(日曜日)※毎週火水は休館 ③2017年8月27日(日曜日)28日(月曜日)10時~17時 | ①須磨海浜水族園エントランスホール 〒654-0049 兵庫県神戸市須磨区若宮町1-3-5 Tel.078-731-7301 ②旧政和小学校 〒074-0426 北海道雨竜郡横加内町政和第二(旧政和小学校/現政和研修センター) Tel.0165-37-2069 ③東京大学弥生講堂 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 Tel.03-3408-6707 | ①須磨海浜水族園に直接お越し下さい(無料) ②会場に直接お越し下さい(無料) ③会場に直接お越し下さい(無料) |
| ご来賓 | 環境副大臣 関芳弘氏 | | |
| 主催 | 「Save The RED LIST」プロジェクト実行委員会 | | |
| 協賛 | 環境省、神戸市環境局 | | |
| 協力 | 須磨海浜水族園、コウノトリ湿地ネット、とくしま自然観察の会、丹波地域のホトケドジョウを守る会、猛禽類医学研究所、長尾 淳史 | | |

協力 須磨海浜水族園/NPOコウノトリ湿地ネット/とくしま自然観察の会/丹波地域のホトケドジョウを守る会/猛禽類医学研究所 協賛 環境省 後援 エルムスユニテッド動物病院グループ www.eug.jp

【主催】「Save the RED LIST」プロジェクト実行委員会

オオワシ

日本：環境省レッドリスト 絶滅危惧II類、国内希少野生動植物種、天然記念物、北海道レッドデータブック絶滅危惧種 ロシア：レッドブック希少種



タカ目タカ科オオワシ(学名:Haliaeetus pelagicus pelagicus)。ロシア極東及び日本に分布しており、繁殖地はアムール川下流域、マガダン、カムチャツカやサハリン中北部。冬季は越冬のため、ウスリー沿海地方南部、朝鮮、日本に飛来する。日本では主に北日本の大きな河川、湖沼、海岸で越冬する。種としての総個体数は約4,600~5,100羽と推定。日本では北海道東部を中心に約1,400~1,700羽が各地に分散して越冬する。

現状と問題点

越冬のためロシアから北海道に渡来してきたオオワシは鉛中毒・車や列車への衝突事故・感電などの人間の活動が関与する原因によって命を落とすことが多い。また、ロシアのアムール川下流域およびサハリンでは、資源開発により生息数が減少傾向にある。

猛禽類医学研究所

北海道釧路市にある環境省釧路湿原野生生物保護センターを拠点に、保全医学の立場からオオワシやシマフクロウをはじめとする絶滅の危機に瀕した猛禽類の救護や傷病原因の究明(環境省事業)、調査研究、保護活動を行っている野生動物専門の動物病院である。保全医学は、人間と動物の健康、さらには生態系の健康に関わる領域を連携させることを目的に、獣医学や医学の観点から生物多様性の保全を目指す比較的新しい学域であり、治療、リハビリ、さらに野生復帰後の追跡調査まで研究所が取り扱う絶滅の危機に瀕した猛禽類は毎年50羽近くにのぼる。

オオワシ保護活動を通して、伝えたいメッセージ

「人間生活が引き起こしている様々な事故や中毒、大規模な生息環境の破壊は、短期間のうちに野生生物に無差別的な打撃を与える危険をはらんでいる。一方で、人が関与しているが故に、至った過程や原因を明らかにできた場合、人が適切に対処することによって、速やかかつ大幅に発生数を減らすことができるとも言える。環境治療を軸に 傷付いた野生動物の救命に努めるとともに、彼らの苦痛や命を無駄にしないためにも怪我や病気の原因究明を徹底的に行い、何らかの人間活動が要因となっていた場合には、責任をもって再発防止に向けた対策を進めていく、すなわち「元凶の元栓を閉める」という考え方がとても大切だ。」

ホトケドジョウ

環境省レッドリスト:絶滅危惧IB類 兵庫県レッドデータブック:Aランク



コイ目タニノボリ科に属する日本固有種。青森県を除く東北以南の本州に生息し、兵庫県においては丹波市のみで生息(西限)。湧水周辺の水草が生い茂る湿地や、流れの穏やかな小川に生息する。兵庫県の生息地では、里山の谷戸から流れ出す冷たい水や湧水が流れ込んでいるが、主に水田として利用されているため、圃場整備による護岸改修などで直接的な生息地の破壊による絶滅の危機に直面している。

現状と問題点

冷水を好むことから、生息地は谷津田の上流部に点在しているが、いずれの生息地も流れが短く、面積が非常に狭いため、多様な環境が出来る場所がない。また、洪水による土砂流入などの環境変動の影響を受けやすいため、容易に絶滅する可能性が高く、危機的な状況にある。

丹波地域のホトケドジョウを守る会

2006年、愛嬌のあるホトケドジョウの姿に惚れ込んだ有志が集結して結成し、ホトケドジョウについて調査、保護する活動をスタートさせた。丹波地域のホトケドジョウの保全の基礎となる生態の解明を事業目的とするとともに、丹波地域の貴重な動植物の保護やその環境保全にも努めている。現在会員数20名。

わたしにもできる! 丹波地域のホトケドジョウを守る活動

丹波地域では、これまで6箇所まで生息が確認されていますが、まだ他の場所にも生息している可能性があります。「ホトケドジョウを見たことがある」、「湧き水が出ている」などの情報がありましたら、ご提供を是非お願いいたします。

コウノトリ

環境省レッドリスト:絶滅危惧IA類 兵庫県レッドデータブック:Aランク



コウノトリは、全長約110cm、翼開長約180~200cm、体重約4.5~5.5kgの大型鳥である。食性は肉食で大量に食する。ロシア・中国の極東地域(アムール川流域)を主な繁殖地とし、中国の東南部や韓国、台湾に渡って越冬する。日本にも1~2羽が冬鳥として飛来することがある。かつて日本、韓国では留鳥化していたが、1970年代に野生絶滅した。大陸でも生息域を狭めており、生息数は約2,500羽~4,000羽と言われている。

絶滅から復活へ

日本のコウノトリは、江戸時代までは各地で見られたようだ。だが、明治初期の乱獲とその後の開発等による環境悪化によって激減し、1971年、最後の生息地・豊岡において野生絶滅した。孤立した小集団に陥っていたこと、圃場整備によって湿地が乾田化されて水系が分断されたこと、農業や化学肥料の大量散布によって餌生物が極端に少なくなったこと等が主な要因であった。兵庫県は本種を絶滅から救うため、1965年から飼育下繁殖を試み、苦難の末に1989年に初の繁殖に成功、以後増殖を続けている。2005年、飼育下での順調な増殖を受け、5羽が初めて野外に放鳥された。以後、野外繁殖にも成功して生息数は100羽を超えるに至り、コウノトリは復活の道を歩み出している。

コウノトリ湿地ネット 【設立】2007年9月20日 【代表】佐竹 節夫 【会員】正会員個人80人|賛助会員個人200人、企業20社

国内では一度野生絶滅し、世界的にも絶滅が危惧されるコウノトリが野生生息できるよう、農家や市民、研究者、企業、行政等と連携して、市民の立場でコウノトリの採餌場所となる湿地の保全活動を行って、人と自然が共生する社会づくりに寄与(会則第3条)することを目指しています。

コウノトリ保護活動を通して、伝えたいメッセージ

これまで長年にわたってコウノトリ保護増殖事業を遂行してきた豊岡が「コウノトリのまち」として注目されてきた。だが、コウノトリの飛翔力は非常に強く、若鳥は広範囲に飛び回り、今では秋田県を除く全国の都道府県に飛来するようになった。問題は、肉食で大食漢、広いテリトリーを有するコウノトリが生息できる環境が、現在の日本にどれだけ残っているかである。広く飛び回るのは、安住の地を探し求めているとも言える。生息環境がないなら、壊してきた人間が再生すればいい。実は、コウノトリ保護活動の最大の魅力は、再生活動の中にあるのです。あなたの地域にも宝が眠っているはずですよ。

シオマネキ

環境省レッドリスト:絶滅危惧II類



現状と問題点

吉野川河口におけるシオマネキとウケシオマネキの市民調査(1994年~1996年)から、シオマネキは吉野川河口から14.5km遡った第十堰までの汽水域のうち、10.5kmの地点まで生息が確認できました。しかもその個体群の生息数も安定しており、ハクセンシオマネキと同程度に生息地の空間的広がりをもっていることがわかっています。シオマネキは、干潟にコシ原が残り、自然度が高い河口域に見られることから、干潟や河口の自然が良好な状態で保たれているかどうかの指標動物になると言われています。河川改修などによって生息地が根こそぎ壊されるのは、シオマネキなど干潟の生物にとっては一番大きな災難です。しかし干潟の底質(地面の質)が、何かの原因によって変わってしまうとその住めなくなってしまう。干潟の多様な生物を守るためには干潟の環境の多様性を守ることも大切です。河口域では、場所によって、どのような泥や砂が溜まるのか、どのように干潟の形が変わるのかは、川の流れや運ばれてくる土砂、海から逆上ってくる水や波の力、地形などの複雑な関係によって決まります。最近、吉野川河口干潟周辺のごく狭い地域に、2本の道路橋建設、河口人工海浜建設など複数の人工改変工事が集中しており、環境への複合的な影響が懸念されています。

とくしま自然観察の会

1994年4月設立。「この指とまれ式」の自然観察会をとおして身近な自然を見直すための活動をしています。「身近な自然にむきあいながら、自然保護を考えることは、特別な人が考える、特別なことではない」をモットーにしています。

シオマネキ保護活動を通して、伝えたいメッセージ

干潟に住むカニたちは、干潟や汽水域だけがあれば生きていけるわけではありません。カニの一生をみると、卵からかえった幼生は、海に下ってプランクトンとしての生活を送り、やがて河口~遡ってきて干潟に住み着くのですから。つまりカニたちを保護し、干潟の環境を保全するためには、潮下帯、潮間帯、潮上帯といった水辺の連続性を大切に、さらに川の upstream から海まで、流域全体をとおした保全が必要なのです。

アマミノクロウサギ

環境省レッドリスト:絶滅危惧IB類



現状と問題点

冷近年ではマングース捕獲活動の成果もあり徐々にマングースの数は減少しアマミノクロウサギの数が回復傾向にあります。人間が放置し野生化した「ネコ」による捕食被害や格安航空(LCC)就航に伴い増加した観光客による交通事故死被害が新たな問題として立ちはかっています。

長尾 淳史 ディレクター/映像監督

1994年生まれ。滋賀県出身。立命館大学映像学部映像学科。映像制作を始めVFXを用いた実写映像制作を得意としている。第14回JCF学生映画祭短編部門 準グランプリ・JCFスカラシップ受賞



アマミノクロウサギ保護啓発ムービー制作プロジェクト

Save the RED LISTの一環としてアマミノクロウサギ保護を啓発するショートフィルムを制作しました。現在問題となっているネコによる捕食問題、観光客による交通事故問題は私たちが人間サイドの自然保護意識が問題です。そこで映像という形で、みなさんに現状をわかりやすく説明し知ってもらおうと考えたと同時に、気軽に見てもらえるような内容構成を目指しました。本ムービーでは奄美観光に来た若者をターゲットに保護啓発を行い、同世代である私自身の目線から今自分たちにできる事を問いかける内容になっています。

● 映像内容

1. 奄美大島の成り立ちと希少な生態系
2. アマミノクロウサギ紹介と問題点
3. 今自分たちにできる事

この三幕で映像は構成されています。第一幕では、奄美大島の雄大な自然風景とシミュレーションCG映像を駆使して、奄美大島の成り立ちを説明します。そしてこの島に生息する希少な生き物たちを紹介し、第二幕では、「生きた化石」と呼ばれ絶滅危惧種に指定されているアマミノクロウサギにスポットを当て、その生態系を紹介し、アマミノクロウサギがおかれている現在進行形の危険な状況を説明します。そして第三幕、ウサギを守るために観光客の方々に注意してもらいたいポイントを説明・注意喚起をします。奄美大島がこれまで歩んで来た時間の重みと、ここでは多くの貴重な生態系が受け継がれてきていることを、みなさんに映像を通して知ってもらい、自然保護に対する意識が芽生えることを願っています。また、奄美大島は世界自然遺産登録を目指しており、その過程においても奄美群島の生態系が守られないといけません。アマミノクロウサギをはじめとする奄美群島の生態系を守るためにご協力お願いいたします。



わたしにもできる! アマミノクロウサギを守る活動

- 夜間は夜行性の生き物たちに注意して運転し、スピードを落とす
- むやみに生き物を探そうと森に入らない
- ペットを安易に飼育、放棄しない

